

テサロニケの信徒への手紙 ー 4章9節～12節 兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。現にあなたがたは、マケドニア州全土に住むすべての兄弟に、それを実行しています。しかし、兄弟たち、なおいっそう励むように勧めます。そして、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。

パウロは次に、「兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです」と言っている。書く必要がないのは、「現にあなたがたは、マケドニア州全土に住むすべての兄弟に、それを実行して」いるからである。1章6節～8節で、「あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡ったばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです」と書いていた。テサロニケの信徒たちは、近隣地域の信徒たちの模範となり、信仰を勇気づける信徒として、広く知れ渡っていた。パウロは、「しかし、兄弟たち、なおいっそう励むように勧めます」と言っている。更に、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう」と諭している。「外部の人々」とは、キリスト信徒でない者たちである。落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、労働すれば、キリスト信徒でない人々に対して、品位を保つことができ、誰にも迷惑をかけずに済むと諭している。

パウロは、「兄弟愛」を「隣人愛」という言葉で、ガラテヤ書5章13節、14節で、下記のように書いている。「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされるからです。」パウロにとって、律法は罪を生み、死に至らせるもので、神の義には到達できないものであった。しかし、キリストの十字架によって罪が赦され、神の命に与る者とされた。そこには、何ものにも拘束されない真の自由がある。パウロは、この自由は肉に罪を犯させる放縦ではなく、互いに仕え合う、愛に生きる自由であると言う。だから、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって、律法が全うされると語るのである。

兄弟愛、隣人愛の「愛」は、いわば、仲間同士の愛で、ギリシア語では「フィレオー」と言う。この愛にも生きられないのが人間の現実であるが、主イエスは、「しかし、わたしは言う。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい(マタイ福音書5:44)」と言われる。パウロは、「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました(ローマ書5:8)」と書いている。私たちは、この愛に包まれているから、愛に向かう生き方へと導かれるのである。